

各県民局・県民センター 地域創生戦略(2020-2024)

1	神戸県民センター	1
2	阪神南県民センター	4
3	阪神北県民局	9
4	東播磨県民局	12
5	北播磨県民局	15
6	中播磨県民センター	18
7	西播磨県民局	22
8	但馬県民局	26
9	丹波県民局	29
10	淡路県民局	32

神戸県民センター 地域創生戦略

I 目指す姿

神戸市の人口は、2011年の154万人をピークに減少傾向にあり、本格的な人口減少・少子高齢化が進展していく中、交流人口を拡大し、定住人口の減少を抑制するためには、自然や文化、歴史など神戸の多彩な魅力や資源を活用した地域の活性化に取り組むとともに、土砂災害対策や地域団体が行う防犯活動への支援等の安全・安心な基盤づくりを進めるなど、地域の元気づくりを一層推進していくことが必要である。

このため、①神戸の魅力を活かした賑わいづくり、②農都・神戸の推進、③安全・安心な地域づくりを柱とした取組を積極的に展開し、賑わいあるまち、住みたい・住み続けたいまち神戸の実現を図る。

神戸市人口の推移（兵庫県企画県民部統計課調べ）

時点	H22. 10. 1	H23. 10. 1	H24. 10. 1	H25. 10. 1	H26. 10. 1
人口（人）	1,544,200	<u>1,544,966</u>	1,543,071	1,541,168	1,539,755

時点	H27. 10. 1	H28. 10. 1	H29. 10. 1	H30. 10. 1	R1. 10. 1
人口（人）	1,537,272	1,535,765	1,532,153	1,527,407	1,522,944

神戸地域観光入込客数の推移（兵庫県観光客動態調査）

時点	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
入込客数（千人）	31,930	31,790	30,956	32,820	35,730

時点	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度
入込客数（千人）	35,430	35,980	35,000	39,330	35,380

【目標】

KPI	目標
住んでいる地域にこれからも住み続けたい人の割合	85%
住んでいる地域に愛着や誇りを感じる人の割合	75%
住んでいる地域に「神戸らしさ」を醸し出す場所があると思う人の割合	55%
神戸市人口	1,518千人
神戸地域観光入込客数	41,000千人
農業産出額	160億円

II 取組の方向性

次の1～3の取組による地域が元気になるまちづくりを進め、交流人口の拡大と定住人口の減少抑制を図る。

1 神戸の魅力を活かした賑わいづくり

豊かな歴史と文化、美しい自然、地域遺産など神戸が持つ魅力を活かし、地域と連携しつつ、賑わいづくりを進める。

2 農都・神戸の推進

都市と「農」が隣接する強みや「神戸」の高い知名度を活かし、農産物の新たなブランド化を進めるとともに、増加する外国人観光客向けサービスの向上に取り組むなど、地域の活性化と農業の生産振興を図る。

3 安全・安心な地域づくり

近年頻発している集中豪雨など自然災害への備えとして、山地防災・土砂災害対策や身近な危険の周知を図る取組を進めるとともに、地域での見守りの強化や鳥獣被害対策に取り組むなど、安全・安心な地域づくりを進める。

III 具体的な取組（主なもの）

1 神戸の魅力を活かした賑わいづくり

（1）豊かな歴史・文化を活かした賑わいづくり

- ①県立美術館を核として、ミュージアムロードに加え、HAT 神戸エリアを対象に現代美術の一大アートゾーンを形成するとともに、各種イベントを開催
- ②歴史や文化、食など地域資源が豊富な神戸西部3都（新開地・兵庫津・新長田）を舞台に、見所マップの作成や1 day ウォークイベント等を開催
- ③神戸新開地・喜楽館を核として、地元出身落語家による県民寄席の開催や外国人向け日本文化体験プログラム等を展開

（2）六甲山の自然環境を活かした賑わいづくり

- ①六甲山ビジターセンターに設置した「六甲山自然体験シアター」を活用し、四季折々の六甲山の魅力を広く発信するとともに、各種のハイキングイベントを開催
- ②六甲山をフィールドにしたヒルクライム大会(仮称)を開催し、サイクルツーリズムを推進

（3）地域の土木農業施設・遺産を活用した賑わいづくり

- ①有馬川親水広場のリニューアル整備を推進するとともに、賑わいイベントや伝統文化の継承を支援
- ②世界最大の吊橋「明石海峡大橋」・舞子公園を舞台に、県政PRも含めた映画上映会等イベントを開催
- ③国登録有形文化財の登録を受けた「湊川隧道」において、新たな保存・活用の取組を推進
- ④世界かんがい施設遺産「淡山疏水」の施設を巡るイベント等を開催

(4) 地域と連携した賑わいづくり

- ①新長田合同庁舎開設を契機として設置した「新長田合同庁舎地域連携会議」のもと、地元との連携による賑わいイベントの実施や商店街の緑化等まちの活性化を推進
- ②神戸まつりや神戸マラソン、神戸ルミナリエなど各種イベントに参画するとともに、観光関連団体や地域団体、商店街等が行う集客・交流イベントを支援

2 農都・神戸の推進

(1) 農の神戸ブランド創出の推進

- ①農業者等が企画提案する神戸特有の農畜水産物を使った加工品等新商品開発、新たな販路開拓など、新ジャンルへのチャレンジを支援
- ②神戸オリーブや有馬山椒など、神戸の地域特産物の生産拡大の取組を支援
- ③新技術導入による神戸産トマトや葉物野菜等の生産を拡大
- ④神戸産農産物のブランド化等の県の取組発信や神戸産農産物の直売を行う「農都・神戸フェア（仮称）」を開催

(2) 神戸アグリインバウンド対策の推進

- ①外国人観光客の集客に向けた農村体験モデルツアーの実施や観光農園のサービス向上に向けた取組を支援

3 安全・安心な地域づくり

(1) 自然災害に備える取組の推進

- ①土石流やがけ崩れから人命、財産を守るため、土砂災害特別警戒区域(R区域)の指定、砂防えん堤や急傾斜地崩壊対策など土砂災害対策を推進
- ②土砂流出防止、崩壊防止など森林が有する多面的機能を発揮させ、山地災害を防止するため、治山ダム、山腹工や森林整備など治山対策を推進
- ③回転灯、看板、横断幕等による注意喚起の強化や危険情報の発信等による河川の安全対策を推進

(2) 地域の安全・安心の確保

- ①地域の安全・安心を確保するため、地域団体による声かけや見守り等の防犯活動を支援

(3) 鳥獣被害対策の推進

- ①イノシシやアライグマ被害の低減を図るため、防護、捕獲、普及啓発を柱とする総合的な対策を実施

阪神南県民センター 地域創生戦略

I 目指す姿

阪神南地域は、中央部の武庫川、東部の猪名川水系が育む豊かな自然と共生しながら個性的な都市群を形成するとともに、特色のあるものづくり産業が集積している地域であり、鉄道・高速道路等の利便性の高い交通ネットワークが構築されている。

歴史的に見れば、「阪神間モダニズム」と呼ばれる独自の市民文化を生み出すとともに、多彩な市民活動が実践されるなど、日本のライフスタイルを先導してきた地域であり、特色のある美術館、博物館等の芸術・文化施設、大学、短期大学等の教育機関、甲子園球場や尼崎スポーツの森をはじめとするスポーツ施設が充実している。

阪神南県民センターでは、少子高齢化の進展や本格的な人口減少の中にあっても、人口減少を抑制しつつ、将来にわたって活力ある地域社会を構築するため、平成27年度に阪神南地域創生戦略を策定し、これまで様々な施策に精力的に取り組んできた。その結果、最大の懸案であった「子育て世代である30～39歳人口の転出超過」が転入超過に転じるとともに、市町内総生産（実質）も順調に伸びている。

これらの成果を持続可能なものとするため、阪神南地域の特性・強みを活かした施策展開通じ、SDGsの視点なども踏まえて、県民、市民、企業、団体等と連携しながら、引き続き、誰もが住んでみたい、住んで良かったと思える「安心して暮らせる阪神南地域」の実現を目指す。

【目標】「安心して暮らせる阪神南地域」の実現

取組方向	K P I	目 標
住んでみたい、住んで良かったと思える阪神南の実現	芸術文化の魅力あふれる住み心地の良い地域づくり (住んでいる地域は芸術文化に接する機会があると思う人の割合)	①毎年前年を上回る
	住民の地域への愛着を育む (住んでいる地域にこれからも住み続けたい人の割合)	②80%以上
	充実した芸術・文化、スポーツ施設等を活かしたにぎわいづくり (観光入込客数)	③15,800千人以上
全世代の人口増加による活気あふれる阪神南の実現	全ての世代をトータルした転出超過の解消 (社会増減)	④転入超過の維持
	安心して結婚・出産・子育てができる環境づくり (住んでいる地域では、子育てがしやすいと思う人の割合)	⑤毎年前年を上回る
安全で安心な阪神南の実現	防災・減災対策に取組み災害から住民を守る (災害の備えが確かなものと思う人の割合)	⑥55%以上
	防犯対策の取組による住みやすい地域づくり (治安がよく、安心して暮らせると思う人の割合)	⑦80%以上
	安全な自転車のまちづくり (自転車違反摘発件数の全県に対する割合)	⑧50%以下
兵庫を支える阪神南の産業力・技術力の向上	兵庫の産業をリードし雇用を創出する地域経済力の強化 (市町内総生産（実質）)	⑨3兆5,608億円以上
	新たな起業による産業の担い手の増加を目指す (開業率)	⑩8.0%以上

○目標設定の考え方

- ①県民意識調査の結果が、毎年前年を上回る（H30：43.5%）
- ②自己ベストの更新（県民意識調査H25：80.1%）
- ③自己ベストの更新（H21：15,776人）
- ④H29に転入超過（+40人（日本人））に転じた状況を維持
（R1：日本人▲616人、外国人1,712人、計1,096人）
- ⑤県民意識調査の結果が、毎年前年を上回る（H30：59.4%）
- ⑥自己ベストの更新（県民意識調査H22：52.9%）
- ⑦自己ベストの更新（県民意識調査H28：80%）
- ⑧自己ベストの更新（H25：54.1%）
- ⑨H28:3兆2,371億円の10%増
- ⑩自己ベストの更新（H24～26期：7.8%）

II 取組の方向性

1 文化・スポーツを振興し、にぎわいを創出する

阪神間モダニズムに代表される阪神地域の多様な芸術文化資源を再評価し磨きをかけることにより、芸術文化の魅力あふれる住み心地の良いまちとして住民の地域への愛着を育むとともに、地域の魅力を情報発信することにより、交流人口の拡大につなげ、にぎわいを創出する。

2 安心して結婚・出産・子育てができる環境をつくる

多くの若者が阪神南地域に転入する一方で、乳幼児や学童期の児童とその親の世代の転出が顕著であることから、地域や企業と一体となった子育て支援などにより、若者が定着し、安心して結婚・出産・子育てできる環境をつくる。

3 安全・安心で住みやすい地域をつくる

南海トラフ巨大地震などの自然災害から住民の安全を守るため、防災・減災対策に取り組むとともに、ひったくり防止などの防犯対策や自転車の安全対策に取り組むほか、地域の担い手の確保などにより、安全・安心で住みやすい地域をつくる。

4 新たな成長を生み出す産業力・技術力を高める

ものづくり産業の集積地としての強みを生かし、イノベーションの促進と雇用の創出を図るため、企業のネットワークを生かした付加価値の高いものづくり産業の発展を促し、新たな起業による担い手の増加や中小企業の新事業展開、まちなか再生に向けた商店街の活性化を図る。

Ⅲ 具体的な取組（主なもの）

1 文化・スポーツを振興し、にぎわいを創出する

（1）阪神間モダニズム再発見プロジェクトの推進

- ①阪神間モダニズムを整理・評価し暮らしの向上につなげる、基本構想の策定
- ②主要作品を手軽に鑑賞できるホームページ等を構築する、「具体美術」普及事業 ～GU T A Iバーチャル美術館開設～
- ③建築物のVRミュージアムや、モダニズム文化を体験する、モダニズム文化活用事業
- ④地域住民に阪神間モダニズムを啓発する、「阪神間モダニズムセミナー」の開催及び、阪神南ゆかりの芸術公演等の鑑賞促進

（2）交流の拡大及びにぎわいの創出

- ①モダニズム探訪や清酒体験などの、スペシャリストと巡る阪神間ぐるっとツアーの実施
- ②美術館等が平日にも無料開放を行う、阪神地域オープンミュージアム 無料開放DAY
- ③地域内に存在する様々な有形文化財を後生に残す、阪神アートVRミュージアム構築事業
- ④阪神南地域の魅力を発信しふるさと意識を高揚する、あにあん倶楽部プロモーション事業
- ⑤生涯スポーツの機運醸成とすそ野拡大を図る、阪神南ふれあいスポーツフェスタの開催
- ⑥自転車地域を巡り、あふれる魅力を体感するサイクリングモデルルートの新設

（3）阪神なぎさ回廊プロジェクトの推進

- ①「森と水と人が共生する環境創造のまち」を実現する、尼崎の森中央緑地の整備
- ②森、植物など自然環境の大切さを学ぶ、尼崎の森中央緑地の利活用
- ③まちを、浜辺を、森を駆け抜け、魅力を再発見するサイクルイベントの開催
- ④運河クルージング及び、運河博覧会の開催などの、尼崎運河の活用

（4）ふるさと意識の涵養

- ①参画と協働により地域づくり活動を実践する、阪神南県民交流大会
- ②森づくり活動を子どもの成長とともに家族で体験できる、尼崎の森ファミリークラブ
- ③地域が抱える課題解決や地域活性化への取組を支援する、阪神南ふるさとづくり応援事業

2 安心して結婚・出産・子育てができる環境をつくる

（1）若者・女性の雇用・就業支援

- ①高校生・大学生がものづくり現場の実態、ものづくりの楽しさに触れるきっかけを創出するため、ものづくり出張セミナー、産業用ロボットセミナー、就業体験バスツアーを実施する、若者ものづくり人材確保支援事業

（2）出会いの機会づくり

- ①未婚化・晩婚化対策として、結婚を希望する独身男女の候補者選びをお手伝いし、お見合いの機会を提供する、出会いサポートセンターの運営

(3) 地域や企業と一体となった子育て支援

- ①都市部の未就学児の親子に、季節毎の森の魅力を感じてもらい、森の子育てひろば事業
- ②親子による野球観戦や小学生スナッグゴルフ大会などの、青少年健全育成活動の実施
- ③親子にスポーツや演劇を鑑賞する機会を提供する、青少年文化体験教室の実施

3 安全・安心で住みやすい地域をつくる

(1) 防災・減災対策の充実

- ①平成30年台風第21号による道路、港湾・海岸、公園、下水の災害復旧
- ②平成30年台風第21号の被災を踏まえた、兵庫県高潮対策10箇年計画に基づく高潮対策
- ③救援物資等の備蓄・集積・搬送、応急活動要員の拠点となる、阪神南広域防災拠点の運営
- ④まちを津波・高潮から守る施設を間近に見て、親子等で防災意識の高揚を図る、尼ロック防災展示室の特別公開
- ⑤防災・減災に関する知識を養う、防災・減災学習会、出前講座の開催
- ⑥大規模災害発生時における企業経済活動の継続を図るため、BCP(事業継続計画)策定及びBCPの実効性を高めるために実施する訓練等に対して支援【全県事業】

(2) 防犯対策の強化

- ①市、警察署、防犯協会等と連携して実施する、ひたたくり防止キャンペーン事業
- ②子どもの安全・安心確保のリーダーのネットワークづくりに資する、阪神南地域安全まちづくり県民交流大会の開催

(3) 自転車まちづくりの推進

- ①市や民間事業者と連携した貸し自転車による、コミュニティサイクルの本格実施
- ②距離標、案内サイン、サイクルスタンドの設置等を行う、サイクリング環境の整備
- ③自転車関係事故を減らすため、市、警察署、交通安全協会等と連携して街頭で実施する、自転車運転マナーアップキャンペーン

(4) 快適な生活環境づくり

- ①海や川をきれいにし、大雨による浸水から暮らしを守る、流域下水道の整備・維持管理
- ②まちの品格・風格を高める街路樹の効果的な整備・維持管理及び、壁面緑化を進める、まちなみ緑化の推進
- ③水質浄化施設での人工干潟づくりなど、大学とともに共同研究を行う、尼崎運河水質浄化プロジェクト

(5) 地域活動の担い手の確保

- ①市民と行政が協働して取り組むための行動指針である「阪神市民文化社会ビジョン」の実現を目指す、阪神南地域ビジョンの推進
- ②地域特性に応じた青少年の育成等に積極的に参画する地域の担い手を養成する、こころ豊かな人づくり500人委員育成事業
- ③大学生の若い感性を生かした地域活性化を図るため、大学生が地域団体や事業者と連携して実施する、大学生による地域づくり活動への支援

(6) 安心できる医療・福祉サービスの確保

- ①安定的・継続的に高度で良質な医療を提供するため、県立西宮病院と西宮市立中央病院を統合再編し新病院を整備【全県事業】
- ②阪神地域における脳性まひ等肢体不自由児者を主とした診療や、リハビリテーション等を行う拠点を設置【全県事業】

4 新たな成長を生み出す産業力・技術力を高める

(1) 起業しやすい環境づくり

- ①地域の大学に出向き、若者をターゲットにした起業家による公演会等を開催する、若者向け創業出前講座
- ②効果的な創業支援のあり方について協議する、若者の創業促進ネットワーク会議の開催
- ③起業プラザひょうごの成果や起業の盛り上がりを波及させるため、尼崎市と連携のもとで起業支援の地域拠点を尼崎市に設置【全県事業】

(2) 新事業展開への支援

- ①優れたものづくり企業を「リーディングテクノロジー」として認定し、技術面での助言・指導等を通じて、コア技術の高度化や新技術の実用化を支援する、阪神南リーディングテクノロジー実用化支援事業
- ②県内外の大規模展示会へ出展し、販路拡大を図る中小企業を応援する、産業フェア等への出展支援
- ③優れた技術・ノウハウを有し、競争力が高いオンリーワン企業を認定・顕彰するとともに、オンリーワンを目指す中小企業の販路開拓等の取組を支援【全県事業】

(3) 商店街等の活性化

- ①学生が地域団体や事業者と連携して地域活性化等に資する活動を行うことで、新しい発想による地域・商店街の活性化手法を開発する、大学生による商店街活性化への支援
- ②観光関係団体や実行委員会等が実施する集客・交流イベント事業を支援することにより、地域のにぎわいを創出し、交流人口の増加、消費喚起を図るとともに、地域の魅力を内外に発信する、地域活性化集客イベント支援事業

阪神北県民局 地域創生戦略

I 目指す姿

阪神北地域は、かつての首都圏「畿内」西端の「摂津国」に属し、歴史の表舞台に数多く登場してきた。明治時代の鉄道網の開発とともに、快適な住環境を備えた郊外住宅地として発展し、近代的な芸術文化や生活様式を柔軟に取り入れた独特のライフスタイル「阪神間モダニズム」を築き、特色ある歴史・文化を育んできた。

また、交通網が充実した多くのニュータウンが開発される一方で、森林面積が約6割を占め、その約9割が天然林であり、今なお歴史・文化や生物多様性などを保つ里山が数多く残されている。

しかし、人口の減少や少子高齢化が急速に進むことにより、オールドニュータウン問題の顕在化や地域の活力低下等が懸念されるなど、成長社会から成熟社会へ移行する中で、この地域の新たな発展が求められている。

このため、利便性が高く、魅力ある地域資源をつなぐ充実した鉄道網・道路網などが整った快適な住環境や「日本一の里山」をはじめとする豊かな自然、さらには消費地に近接する都市・都市近郊農業の優位性を生かし、「阪神間モダニズム」といわれる地域独自の市民文化などの中で実践される自然・歴史・文化・芸術・スポーツなどの多彩な活動を楽しむ生活全体を「アート・ライフ」と名付け、自分にあった生活を創造・実現できる地域づくりに取り組み、若者の域外への転出を食い止め、転入を促し、「アートな暮らしが賑わう活力あるまち」を目指す。

【目標】

取組方向	K P I	目標
アートなまちづくり	芸術文化に接する機会 (住んでいる地域は芸術文化に接する機会があると思う人の割合)	60%以上
	自然・歴史・芸術・文化・スポーツで賑わうまちづくり(観光入込客数)	2,100万人
	地域資源の価値(観光消費額(名目))	2,400億円
里山の魅力	対外的に誇れる地域資源の存在 (住んでいる地域に自慢したい地域の「宝」(風景や産物、文化など)があると思う人の割合)	60%以上
	農産物等生産・流通(農業産出額(推計))の向上	78億円
暮らしやすさ	阪神北地域に住み続けたい人(住んでいる地域にこれからも住み続けたい人の割合)	80%以上
	移動の利便性が高い地域(住んでいる地域の公共交通機関は便利だと思う人の割合)	70.0%以上
	転入者数(日本人住民・国外含む)	27,000人
	ものづくり技術力(製造業付加価値額)の向上	4,400億円

II 取組の方向性

- 1 歴史・文化や景観を生かした街並みを整備するとともに、清和源氏発祥の地などの歴史文化や阪神間モダニズム文化、地域の伝統文化などの多彩な魅力を体感し、自分に合ったライフスタイルを発見・実現できる地域づくりに取り組む。

- 2 都市・都市近郊農業の魅力アップや地域住民、団体、事業者等が一体となって、重要な地域資源である北摂里山(先進的里山・まち山を含む)の持続的な保全、新たな利活用等を推進することにより、地域のブランド力向上に取り組む。
- 3 住環境の良さを内外にアピールするとともに、認知症の人などを支え合うまちづくりや、高齢化が進む農村と都市住民の交流促進、地域を支える産業の振興や雇用の創出を支援することなどにより、誰もが暮らしやすさを実感できる地域づくりに取り組む。

Ⅲ 具体的な取組（主なもの）

1 歴史・文化・芸術が息づく「まち」の創出

(1) 伝統文化と阪神間モダニズムが息づくまちづくり

自分に合ったライフスタイルの発見・実現を支援するため、阪神間特有の文化を生かした地域づくりの基本構想を策定するほか、地域内に存在する有形・無形文化財等をVR技術によりWeb上で紹介するバーチャル博物館を構築・発信する。

- ・ 阪神間モダニズム再発見プロジェクト基本構想の策定・推進
- ・ 阪神アートVRミュージアムの構築・発信 等

(2) 自然・歴史・文化を生かしたまちづくり

来訪者や地域住民がスポーツサイクルやまち歩きを楽しむまちづくりを目指し、地域を代表する自然・歴史・文化等の地域資源を生かしたスポーツサイクルを楽しむ環境や街並み整備等に取り組む。

- ・ 北摂里山サイクルツーリズムの推進
- ・ 武庫川（宝来橋～宝塚大橋）周辺散策空間の整備
- ・ 多田神社周辺のまち並み整備
- ・ 城郭都市文化（伊丹城跡、三田城下町、宝塚小浜地区）の発信

(3) 地域の魅力を生かした交流人口の拡大

交流人口の拡大を図るため、多彩で魅力的な地域資源のPRや外国人観光客の誘客促進に向けたツーリズム施策を展開する。

- ・ ひょうご北摂魅力情報の発信
- ・ ひょうご北摂・インバウンド方策の推進
- ・ 県立有馬富士公園「新宮 晋 風のミュージアム」の魅力発信 等

2 地域のブランド力が高まる「まち」の創出

(1) 阪神アグリパーク構想の推進

都市・都市近郊農業の振興を図るため、阪神地域の特色を活かした多彩な農畜林産物や「食」に関わる活動拠点をアトラクションとし、地域全体をテーマパークと見立てて策定した“阪神アグリパーク構想”を推進する。

- ・ 阪神アグリパーク構想の推進 等

(2) 北摂里山の魅力向上の推進

伝統的里山、先進的里山、天然記念物の保全・管理や環境学習の支援などを担っている地域団体等とも連携しながら、北摂里山(先進的里山・まち山を含む)の持続的な保全を図り、北摂地域の活性化につなげるため、北摂里山博物館(地域まるごとミュージアム)構想を推進する。

- ・北摂里山魅力づくり応援事業
- ・里山資源を活用した環境学習の実施
- ・バーチャル博物館の運営 等

3 住み続けたい「まち」の創出

(1) 「ひょうご北摂ライフ」の推進

移住・定住の促進を図るため、良好な住環境や地域の魅力を体験する機会を提供するなど、阪神北地域の暮らしやすさのPRに取り組む。

- ・「ひょうご北摂ライフ」魅力発信による移住・定住の促進 等

(2) 認知症の人や高齢者などにやさしいまちづくり

誰もが安心して生活できる地域づくりを目指し、認知症の人などをみんなで支え合う気運の醸成や障害者の自立と社会参加を支援する。

- ・認知症の人をサポートする取組の推進
- ・フレイル予防の推進
- ・“きらっと☆オンリーワン”製品の販売促進 等

(3) アグリライフ・シェアリング構想の展開

シェアリング・エコノミーの手法を活用し、楽しむ「農」の気運醸成を図るため、農業を体験・応援したい都市住民と高齢化が進む農業従事者の協働による地域づくりに取り組む。

- ・アグリライフ・シェアリング構想の展開

(4) 阪神北地域の経済活性化

豊かさと賑わいを創出する地域経済の活性化を目指し、地域産業の高度化や人材確保、起業したい人などを支援する。

- ・起業・創業の支援
- ・企業立地の支援
- ・管内企業の人材確保支援 等

(5) 安全・安心な暮らしの実現

自然災害などの脅威から暮らしを守るため、安全で安心して生活できる地域づくりに取り組む。

- ・震災の経験・教訓の継承
- ・総合治水対策の推進 等

東播磨県民局 地域創生戦略

I 目指す姿

東播磨地域は、中央部に県下最大の河川「加古川」が流れ、南部は播磨臨海工業地帯の中央にあり、県下で最も製造品出荷額が多い地域である。

また、いなみ野台地では「加古大池」をはじめとする個性豊かなため池が数多く密集しており、地域全体に海・川・ため池などの豊かな水辺空間が広がっている。これらの地域資源を大切に守り生かしながら、自然と地域が共生できる持続可能な地域づくりの展開を図ってきた。

人口の流れに目を向けると、管内には大企業に関連する優良な中小企業が多く、また自市町内もしくは近隣市町への通勤者が多い中で、0～14歳、20歳代後半～40歳代前半の子育て世代が、公共交通の充実した地域に転入している。一方、20～24歳人口の転出超過が大きい傾向にあり、この世代の転出抑制に向けて、地域内で家庭を持ち子育てする環境を整えるため、働く場を確保するとともに、広域的に交通の利便性を高め、安心して生活を送ることができる地域づくりを進める必要がある。

このため、「人・もの・情報が交流する魅力と賑わいの拠点づくり」、「いきいきと暮らせる安全安心なまちづくり」、「安心して結婚・出産・子育てできるまちづくり」、「東播磨の特性を活かした産業の活性化と働く場づくり」を推進し、一人ひとりの生活の質の向上とふるさと東播磨の元気の実現を目指す。

【目標】

K P I	目標
観光客入込数	10,000千人 (H30:9,416千人)
住んでいる地域に誇りや愛着を感じる人の割合 ※	全県平均並み (R1:全県 66.2%、東播磨 63.1%)
住んでいる地域の災害に対する備えは、以前より確かなものになっていると思う人の割合 ※	全県平均並み (R1:全県 34.0%、東播磨 30.7%)
住んでいる地域は、治安が良く、安心して暮らせると思う人の割合 ※	全県平均並み (R1:全県 79.4%、東播磨 70.2%)
刑法犯認知件数	3,068件 (R1(5,113件)の60%)
管内の交通事故件数	2,525件 (R1(3,366件)の75%)
住んでいる地域は、子育てがしやすいと思う人の割合 ※	毎年度前年度を上回る (R1:全県 55.4%、東播磨 62.6%)
お住まいの市・町の公共交通は便利だと思う人の割合 ※	全県平均並み (R1:全県 52.6%、東播磨 47.4%)
東播磨地域における若年者(20～24歳)の転出超過数	転入・転出均衡 (H30:544人)
新規就農者数	20人/年
管内の製造品出荷額	県民局別1位の維持

※は「兵庫のゆたかさ指標」県民意識調査

II 対応の方向性

(地域の元気づくり)

- 1 地域資源のブラッシュアップを図るとともに、地域資源を連携させることにより「点」から「線」、さらには「面」として地域の魅力を創出する。
- 2 地域防災力の向上と住民が安全安心を実感できる施策を展開する。

(人口対策)

- 1 安心して結婚・出産・子育てができるよう、ライフステージの様々な段階に対応した施策を展開するとともに、地域交通の最適化などのスマートシティの取組を推進する。
- 2 地域資源を活用し、小学生からの「ふるさと意識」の醸成や若年層の雇用の場の確保、近郊農業の地の利を活かした農産物生産、新規就農による雇用創出などの施策により、東播磨地域への定着・移住を進める。

III 具体的な取組

(地域の元気づくり)

1 人・もの・情報が交流する魅力と賑わいの拠点づくり

(1) 魅力と賑わいの拠点づくりの推進

明石港東外港地区再開発や古民家の改修・活用などによる「高砂みなとまちづくり構想」の具体化に取り組むとともに、お茶・座禅などの体験を含めたインバウンド観光・滞在型観光の誘客に向けた取組を行う。

(2) 交流を促す基盤・拠点の整備と多彩なネットワークの構築

駅周辺の拠点整備やまちづくりを検討していくほか、東播磨道北工区整備や、国道2号の4車線拡幅、渋滞交差点対策等により多彩なネットワークを構築する。

(3) 水辺との心豊かな暮らしが思い出に残るふるさと意識の醸成

豊かな海の再生やコウノトリが飛来する地で「いなみ野ため池ミュージアム」を進めるとともに、河川敷におけるマラソン・サイクリング・レガッタなどのスポーツを通じた交流促進により、豊かな水辺をいかした賑わいの拠点づくりに取り組む。

2 いきいきと暮らせる安全安心なまちづくり

(1) 地域防災力の向上

近年、全国各地で甚大な自然災害が頻発していることから、治水や地震対策を推進するとともに、住民が主体的に取り組む防災活動を支援するなど、地域防災力の向上を図る。

(2) 安全な自転車利用環境の構築

安全性を高める交差点改良や自転車レーンの整備、交通ルールの認識向上など、誰もが安心していきいきと日常生活を送れるよう支援する。

(人口対策)

1 安心して結婚・出産・子育てできるまちづくり

(1) 様々なライフステージに対応した子育て施策の推進

子育て世代の転入や、若者の定着促進に向け、安心して結婚・出産・子育てができるよう、雇用・就業支援、出会いの機会の提供、仕事と家庭の両立のために地域や企業と一緒に育つ子育て支援などの充実を図る。また、安全安心で快適性や利便性の高い社会サービスが提供されるスマートシティの取組を推進する。

(2) 利用しやすい新たな公共交通サービスの提供

安全で快適な生活を送れるよう、デマンド型移動支援サービスなど、新たな公共交通サービスの提供により利用者の利便性の向上を図る。

(3) 健康・福祉の充実

食や健康、保育や介護などの様々な分野における新たな仕組みを検討・構築し、子育て世代を支援する。

2 東播磨の特性をいかした産業の活性化と働く場づくり

(1) 東播磨ものづくり企業の魅力発信

未来を担う子どもたちが地元企業に愛着を持てるよう、ものづくり企業などの体験ツアーの実施や、地域内外の大学や高等学校の若者に地元企業の魅力をPRする機会を作り、若者の就業に結びつく支援を実施する。あわせて、その魅力を国内外に発信し、販路拡大にも取り組む。

(2) スマート農業の推進

新規就農者や若手農業者が活躍できる働く場を創出するとともに、ICTを活用したスマート農業の推進による農産物の高品質化、ブランド化、省力化を図るなど、安定した収入源の確保を支援する。

北播磨県民局 地域創生戦略

I 目指す姿

北播磨地域は「農」と「食」、自然、歴史・文化、地場産業など、豊かで多彩な地域資源を有している。また、中国自動車道や山陽自動車道など高速道路の結節点として交通の要衝を形成している。

これらの地域特性を最大限に活用し、北播磨が誇る「農」と「食」を核に、①「農」と「食」の魅力づくりによる「北播磨」の創生、②「北播磨」魅力体験ツーリズム等による交流人口・環流人口の拡大、③「北播磨」を担う人材の育成・定着、④いきいき暮らせる安全安心な「北播磨」の創出、を柱に施策を展開し、豊かで元気な地域づくりを推進する。

【目標】

KPI	目標
農産物直売所の販売額	5億円増加／5年間
新規就農者数	累計150人／5年間
観光客入込数	15,500千人
若年層(20～39歳)の転出入数	均衡
地場産業の生産額	960億円
住んでいる地域に愛着や誇りを感じる人の割合	67%
住んでいる地域の災害に対する備えは、以前より確かなものになっていると思う人の割合	37%

II 取組の方向性

(地域の元気づくり)

北播磨地域は、日本一の酒米「山田錦」をはじめ、「ローストビーフ」、「ふるさと巻き寿司」などの豊かな「農」と「食」、日本遺産に認定された播州清水寺や一乗寺などの歴史文化財、播州織や三木金物などの地場産業、といった様々な地域資源を有している。これら地域資源を磨きあげながら魅力を発信し、組み合わせる機会を提供することにより、交流人口・環流人口の拡大を図り、地域の元気づくりにつなげる。

- 1 北播磨の「農」と「食」の魅力を広く発信するとともに、その生産を支える担い手や産地に対して、品質向上や6次産業化による付加価値の向上等により経営の安定化を図る。
- 2 北播磨の豊かで多彩な「農」と「食」や地場産業など、地域の魅力を体験するツアーの実施等を通じて、地域内外の参加者に北播磨の魅力を発信し、北播磨への理解を深め、交流人口や環流人口の拡大を図る。

(人口対策)

北播磨地域の人口は、平成12(2000)年の298,390人をピークに減少に転じ、人口減少に拍車がかかっている。このため、定住人口の減少抑制に向け、若者の雇用の創出や移住の促進を図り、防災・子育て・医療・福祉など安全安心に暮らすことができるまちづくりを進め、地域の元気づくりを進めるなかで取り組む北播磨の未来を担う人材育成を通じて、シビックプライドの醸成を図る。

- 1 若者による地域における創造的な活動の支援やふるさと情報の発信等により、ふるさと意識の醸成を図る。また、地場産業や地域ビジネスなどの地域産業を活性化するとともに、情報発信や相談会等により若者の北播磨企業への定着や都市部の移住希望者の北播磨地域への移住を促進する。これらを通じて地域に誇りを持った「北播磨」を担う人材の育成、定着を進める。
- 2 豊かな自然、歴史・文化等に恵まれた環境のなか、住民、事業者、行政が力を合わせ、いきいきと暮らせる「北播磨」を創出するとともに、災害に対する防災意識の高揚や啓発、地域ぐるみの子育てや認知症カフェの立ち上げ支援によるまちづくり等、地域住民が安全安心に暮らせる「北播磨」を創出する。

Ⅲ 具体的な取組（主なもの）

(地域の元気づくり)

- 1 「農」と「食」の魅力づくりによる「北播磨」の創生
 - ・ 北播磨産の農畜産物や農産加工品を広くPRするイベントの実施や、市町等の地産地消イベントを応援
 - ・ 山田錦のブランド力強化と安定生産のため、栽培省力化技術の導入など担い手の経営基盤を強化
 - ・ 大粒系の高品質な“プラチナぶどう”づくりの推進と産地の生産性向上や維持、若手生産者の育成
 - ・ 黒田庄和牛や播州百日どり等の飼育技術の改善指導や生産振興
 - ・ 地域の農畜産物を活用した加工品開発や、新たな山田錦の加工品やレシピ、パッケージデザインなどの新商品開発等による新たな魅力づくり
 - ・ 道の駅や農産物直売所などの都市農村交流施設等を拠点とした北播磨「農」「食」体験の実施や来訪者に対するコーディネートやファーマーズマーケットの開催
- 2 「北播磨」魅力体験ツーリズム等による交流人口・環流人口の拡大
 - ・ 北播磨の「農」と「食」と、価値ある地場産業をはじめとする地域ならではのものづくり体験や、インフラ建設現場の見学等を組み合わせた、北播磨の魅力を体験するツアーの実施
 - ・ 「農」と「食」、国宝や日本遺産などの多彩な地域資源を有機的につなぐサイクリングルートとフットパスによる都市と農村の交流拡大
 - ・ 地域資源を組み合わせたイベント実施等による、JR加古川線、神戸電鉄粟生線、北条鉄道の利用促進及び沿線活性化

【基本目標】

- ・ 農産物直売所の販売額を5年間で5億円増加させる（H30(2018)年：31.9億円）
- ・ 新規就農者数を5年間で150人(累計)にする（H30(2018)年：19人）
- ・ 令和6(2024)年度における観光客入込数を15,500千人にする。
（H30(2018)年：14,074千人）

（人口対策）

1 「北播磨」を担う人材の育成・定着

- ・ 高校生による地産地消活動や特産品の情報発信、世代間交流事業など高校生が主体となった地域づくりの促進
- ・ 山田錦の栽培、地域の歴史や生活等、山田錦の素晴らしさを伝える北播磨「山田錦」語り部の養成
- ・ 北播磨の地場産業や地域ビジネスの販路拡大、イベント、PR等の取り組みや、観光資源としての活用による地域産業の活性化
- ・ 大学と北播磨地域企業との就職情報交換会や就職説明会の開催
- ・ 高校生を対象とした地元企業見学バスツアーや高校生のための地元企業展示・説明会の実施
- ・ 都市部（大阪・東京圏等）の移住希望者への情報発信・移住相談、移住体験ツアー等の実施

2 いきいきと暮らせる安全安心な北播磨の創出

- ・ 自主防災組織の強化及び地域防災力の向上を図るための、避難所運営にかかる体験型研修の実施
- ・ 県民の参画と協働のもと、交通事故のない地域づくりを目指した「ストップ・ザ・交通事故」県民運動の展開
- ・ 子育て家庭の声かけ運動等を行う「子育て応援運動」の支援や、地域ぐるみで子育て家庭を支援する「子育て応援ネット」の推進
- ・ 認知症カフェの立ち上げや認知症に関する専門職研修を支援し、地域社会全体で認知症の人を支える基盤整備及び人材育成

【基本目標】

- ・ 令和6(2024)年度における若年層(20～39歳)の転出入数を均衡させる。
（H30(2018)年：▲487人）
- ・ 令和6(2024)年度における地場産業の生産額を960億円に維持する。（H30(2018)年：957億円）
- ・ 令和6(2024)年度における県民意識調査「住んでいる地域に愛着や誇りを感じる人の割合」を67%にする。（H30(2018)年：60.7%）
- ・ 令和6(2024)年度における県民意識調査「住んでいる地域の災害に対する備えは、以前より確かなものになっていると思う人の割合」を37%にする。（H30(2018)年：33.5%）

中播磨県民センター 地域創生戦略

I 目指す姿

中播磨地域の緑豊かな自然、播磨灘の豊富な海の幸や世界文化遺産・姫路城など恵まれた地域資源を活用し、4つの目標を定め、県民、市町、企業、団体等と連携しながら日本遺産「銀の馬車道 鉱石の道」を核として、「人と地域がつながる“元気”な中播磨の創生」を目指す。

【目標】

KPI	目標
観光入込者数	10,327千人
観光宿泊者数	1,458千人
若者の転入超過数（20～39歳）	▲460人
（うち女性の転入超過数）	▲155人
新卒高校生の管内就職割合	60%
お住まいの市・町の企業に活気が感じられると思う人の割合	40%
お住まいの市・町の駅前や商店街に活気が感じられると思う人の割合	35%
地元や県内の農林水産業に活気が感じられると思う人の割合	28%
住んでいる地域にこれからも住み続けたい人の割合	85%
地域の災害に対する備えは、以前より確かなものになっていると思う人の割合	50%

II 取組の方向性

1 思わず訪れたいくなる中はりま

日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」の歴史的魅力を国内外に発信するとともに、東京オリンピック・仏パリオリンピック等国际イベントの開催を機に滞在型・周遊型観光を推進し交流人口を拡大する。

2 若者・女性が活躍できる中はりま

若者の地元就職や女性の活躍を促進するとともに、高校生・大学生等の意見を活かすなど、若者の県施策等への参画を推進する。

3 活気とにぎわいのある中はりま

姫路市文化コンベンションセンターの開館（令和3年度予定）や福崎駅前整備等を機に中播磨地域の賑わいづくりを一層推進するとともに、産学官連携による“ものづくり”企業の競争力向上、社会インフラの充実、農林水産業の活性化を図る。

4 暮らしやすさ No.1の中はりま

県立はりま姫路総合医療センター（仮称）（令和4年開院予定）を中心とした質の高い効果的な医療の提供や災害に強い社会基盤を整備する等、安全安心のまちづくりや、ふるさと意識や地域への愛着の醸成を推進する。

Ⅲ 具体的な取組（主なもの）

1 思わず訪れたいくなる中はりま

（１）日本遺産「銀の馬車道 鉱石の道」推進プロジェクト

日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」ゆかりのシスレーなどフランスとのストーリーを活かし、欧州からの交流人口増加を目指すとともに、周辺の魅力を含めた地域のブランド化に取り組む。

- ① つなぐ銀の馬車道～轍プロジェクト～
- ② 銀の馬車道ブランドの推進
- ③ 「銀の馬車道・鉱石の道」の見える化と魅力発信
- ④ サイクルモデルルート「銀の馬車道・鉱石の道周遊ルート」の整備

（２）訪れて巡りたいくなる中はりま

世界文化遺産・姫路城の知名度を活用し、中播磨の豊かな観光資源への周遊と体験ツーリズムの活性化を図る。

- ① 思わず行きたくなる中はりま誘客促進
- ② 播但線沿線等の魅力アップ
- ③ 中はりま「気軽に農泊」モデル事業

（３）豊かな資源を活かした食の魅力発信

豊かな自然や食文化など様々な地域資源を活かし、地域特産物のブランド化、魅力と活力のある地域づくりに取り組み、国内外にその魅力を発信することにより交流人口の拡大を図る。

- ① 食と農で結ぶ夢街道づくり
- ② はりま姫路の前どれ海の幸グレードアップ作戦
- ③ 中はりま食文化の発信
- ④ 水産資源を守り育てる増殖場の整備

2 若者・女性が活躍できる中はりま

（１）若者・女性の就業・地域活動支援

中播磨地域では、20歳代は転出超過となるものの、30歳代では転入超過となる傾向がみられることから、進学・就職を機に域外へ転出した若者・女性をメインターゲットに、産官学が連携し、就業支援や地域活動の支援を行う。

- ① 中はりまの企業PR大作戦（UJIターン対策）
- ② 産学官連携による「中はりま産業力」強化
- ③ 中はりま木造インターンシップによる技術伝承支援事業
- ④ 女性の活躍促進
- ⑤ 生活創造活動支援

（２）高校生・大学生等の参画

日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」沿線の高校生による地域を巻き込んだ新たなプロジェクトの提案など、高校生・大学生等の県施策等への参画を促進する。

- ① 日本遺産高校生フォーラム
- ② 地域政策を検討する会議等への高校生・大学生等の参画
- ③ 小学生への社会基盤整備PR事業

3 活気とにぎわいのある中はりま

(1) 姫路駅周辺の“顔づくり”の推進

姫路市文化コンベンションセンターが令和3年秋の供用、県立はりま姫路総合医療センター（仮称）が令和4年度の開院を目指して整備が進められていることから、引き続き「姫路市都心部まちづくり構想（H18.3策定）」の推進に協力し、播磨地域の中心である姫路駅周辺整備を図るとともに、駅周辺の施設整備に合わせた道路等の整備を推進する。

- ① 駅周辺の整備推進
- ② 駅周辺道路等の整備推進

(2) 姫路港の賑わいづくりと利活用

開港60周年を機に入港したクルーズ客船を今後も姫路港に迎え、新たな賑わいを創出するため、クルーズ客船の誘致活動をさらに強化する。また、旅客ターミナルエリアのリニューアル等の推進により、県民の交流や賑わい空間を創出することで地域の活性化を図る。

- ① 観光クルーズ客船の誘致強化
- ② 背後圏企業へのポートセールス活動の展開
- ③ 姫路港旅客ターミナルエリアリニューアル
- ④ 姫路港・海の魅力発信

(3) 中播磨地域の元気、活力を支える道路網の整備

中播磨地域の元気、活力を支えるため、高速道路から生活道路にいたる道路網について、利活用の増進や中心市街地の形成などに重点を置きつつ、選択と集中により、効率的・効果的な整備を進める。

- ① 播磨臨海地域道路
- ② 播磨の中心市街地（姫路市）の骨格道路網形成

(4) はりまのものづくりを強化するための支援

中播磨地域に集積する産学官に係る資源の効果的な連携を図り、大学、企業との技術交流の促進により、地域のものづくり力の一層の強化を図る。また、ものづくりを支える人材を確保するため、企業の情報を広く発信するとともに、企業と学生のマッチングを図る機会を充実させる。

- ① ものづくりを支える人材確保支援
- ② 中はりまの企業PR大作戦（UJIターン対策）（再掲）
- ③ 産学官連携による「中はりま産業力」強化（再掲）

(5) 農林水産業の生産振興

過疎・高齢化や耕作放棄地の拡大が懸念される中播磨北部地域における新規就農者サポート、収入安定化のための事業を展開するとともに、農地の面的集積とほ場の大区画化を一体的に進めるほ場整備を推進し、農業水利施設の機能が適正かつ持続的に発揮されるよう点検整備や補修に取り組むほか、防災対策として老朽化したため池等を改修する。

- ① 中はりま がんばる「農」地域サポート事業
- ② 中はりま農業パワーアップ作戦
- ③ 人とシカが共生できる地域創出事業
- ④ 農業生産基盤の整備
- ⑤ 持続可能な森林経営に向けた森づくり

4 暮らしやすさNo.1の中はりま

(1) ふるさと意識、地域への愛着の醸成

地域文化や郷土史等を次代に伝える事業を実施・支援するなど、子どもや若者のふるさと意識や地域への愛着の醸成に取り組むとともに、独身男女の出会いを支援する。

- ① 中播磨地域ビジョンの推進
- ② 中播磨地域づくり活動応援事業
- ③ 伝統文化を通じた青少年の文化力アップ
- ④ 環境学習の推進
- ⑤ 青少年の健全育成活動の推進
- ⑥ 中はりま縁結び交流会

(2) まちの安全・安心の推進

自然災害から安全・安心を確保するため、治水・高潮・土砂対策等にかかる基盤整備を推進するとともに、地域防災力の向上を図る。

- ① 災害に強い社会基盤整備の推進
- ② 中はりま地域防災力の充実・強化
- ③ ため池保全の推進

(3) 暮らしの安全・安心の推進

災害時の医療情報や消費生活など幼児・高齢者等も含めた、暮らすひとの安全・安心を確保する地域づくりを目指す。

- ① 小児救急医療・適切な受診行動の促進
- ② 地域包括ケアシステムの推進支援
- ③ 地域を支える看護人材の確保
- ④ 授産品の販路拡大支援
- ⑤ 高齢者の低栄養・フレイル対策事業
- ⑥ 災害時における医療提供に関する情報伝達訓練・研修事業
- ⑦ 安全安心な消費生活の推進
- ⑧ 地域ぐるみの安全対策事業
- ⑨ 野生動物の被害対策の推進

西播磨県民局 地域創生戦略

I 目指す姿

西播磨県民局地域創生戦略（平成 27～31 年度）を展開する中で、出生数の減少と若者世代の地域外への流出による人口減少が進むとともに（平成 27 年：260,312 人→平成 31 年：248,747 人）、老年人口の割合（平成 27 年：29.8%→平成 31 年：32.9%）が高くなり、一人当たりの所得は変わらないものの地域全体の生産力が弱まる（名目 GDP 平成 28 年度：9,820 億円→平成 29 年度：9,781 億円（0.4%減少、全県では、1.0%増加））など、西播磨地域全体の活力は徐々に低下してきている。

このため、地域創生の基本理念の下、人口が減少する社会においても地域が活力をもって自立できることを目指し、西播磨ならではの歴史・文化資源等の活用を通じて関係人口や交流人口の拡大を図るとともに、地域の特徴を生かした企業等のさらなる成長を地域全体で応援していく。

また、人口の減少幅をできる限り抑えられるよう、第 1 次産業等への就職の選択肢を示すとともに、地域に残る伝統文化など地元の魅力をわかりやすく伝えることで、地域外への若者の流出を防いでいく。さらに、結婚や子育てに対する意識醸成や子育て環境の整備を進め、家庭を持ちたいという若者の希望が叶う体制を構築していく。地域の各主体の力を生かした「参画と協働」を基本としてこれらの取組を積極的に展開することにより、「元気あふれる西播磨」の実現を目指す。

【目標】

KPI	目標
西播磨地域における観光入込客数	7,000 千人
西播磨地域における事業所数の維持	11,000 事業所
西播磨地域における若者（20 歳代）の転出超過数抑制	転入・転出均衡
西播磨地域における婚姻件数（20～44 歳）の維持	800 件

II 取組の方向性

1 地域の元気づくり

- (1) 西播磨に存在する山城や地域の伝統文化など魅力的な歴史・文化資源を活用するとともに、マルチメディアによる効果的な情報発信を展開し、地域内への誘客を進める。
- (2) 地元優良企業のブランド力や特色ある農産物、豊かな森林など、地域資源を生かした産業を活性化する。
- (3) 若者をはじめ住民の防災・減災意識を向上し、地震、津波、豪雨等の自然災害に強い基盤整備を推進することにより、持続的な地域防災力の向上を図るとともに、低炭素社会づくりや生態系の保全を図る環境対策を通じて、誰もが安心して暮らせる地域をつくる。

2 人口対策

- (1) 若者にふるさとへの誇りや愛着を育て地元への定着につなげるとともに、“西播磨暮らし”の魅力を伝える UIJ ターンの促進策や若者の雇用の場の確保により、地域を支える人材を育成する。
- (2) 独身者が結婚に前向きになるよう様々な機会を捉え意識醸成に取り組むとともに、安心して子育てできる環境を整備する。
- (3) 誰もが安心して、自分らしく暮らし、元気に活動できる共生社会の実現に向け、質の高い保健・福祉・医療サービスの確保を図る。
- (4) 鉄道の利便性向上や道路ネットワークの整備を図るとともに、播磨科学公園都市で新しい技術を用いた生活支援サービスの実証試験を行うなど、生活圏を維持する新たな都市のモデルを構築する。

Ⅲ 具体的な取組（主なもの）

1 地域の元気づくり

- (1) 西播磨ならではのツーリズムの振興による交流人口の拡大

西播磨に存在する 130 もの山城や地域で体験できる伝統文化、たつの市龍野伝統的建造物群保存地区等の歴史的建築物など魅力的な歴史・文化観光資源の活用をはじめ、上質なガイドの育成、AR（拡張現実）を利用した天守の再現などにより、元気高齢者や外国人等の観光客をターゲットとした誘客を推進する。併せて、ホームページを核として YouTube やラジオ放送など、マルチメディアによる効果的な情報発信を展開する。

また、兵庫、岡山、鳥取の 3 県による県際交流を進めるとともに、JR 姫新線、JR 赤穂線、国道 29 号のさらなる活用や、日本遺産等を生かした賑わいづくりに取り組んでいく。

- (2) 地域資源を生かした産業の振興

SPring-8 など播磨科学公園都市に集積された科学技術基盤を生かした先端産業を始め、地場産業である素麺、醤油、皮革などの製造を行う西播磨の企業の知名度向上や販路開拓に向けた取組、起業セミナーの開催や人材確保対策など、商工会・商工会議所が行う企業支援活動を応援する。また、地元産のカキの養殖を手がける女性、龍野レザー職人など「輝く女性」の取組を広く発信し、西播磨の女性の活躍を一層促進する。

西播磨地域で生産される個性・特徴ある農畜産物を利用した新商品の開発や生産技術確立に向けた支援、PR コンテストなどを行う。また、豊かな森林資源を有効に活用するため、間伐などの森林整備を推進するとともに、木質バイオマスの利用拡大を図る。さらに、栄養塩の適正管理により豊かな海を創出し、カキ等の水産資源の生産量拡大や水産物のブランド化を推進する。

(3) 住みやすく元気で安全安心な社会の構築

安全安心な社会を構築し、災害に強い西播磨をつくるため、地域(地区)の防災訓練やワークショップの開催、防災計画策定等の取組を促進する。

さらに、地域(地区)の防災活動の担い手が高齢化する中、次の世代を担う若者に対して、災害の経験と教訓を伝え、防災活動の担い手としての意識を醸成していく。

また、西播磨は、緑豊かな森林と揖保川、千種川の二大河川を有し、自然環境に恵まれた地域である反面、自然災害時には、これまでも土砂や浸水被害等の脅威にさらされてきたため、西播磨地域総合治水推進計画に基づき、河川下水道、流域、減災対策等を総合的に進めていく。

さらに、環境対策としては、廃プラスチックの削減に向けた啓発活動や、シカやカワウなど有害鳥獣の駆除活動を進め、誰もが安心して暮らせる社会を構築していく。

2 人口対策

(1) ふるさとへの愛着の育成と UIJ ターンの促進

就職を控えた地元の高校生や大学生に対して地域の優良な企業を紹介し、地元への就職や定着を促していく。また、地域課題に取り組む地元の高校生等の活動を支援するとともに、高校を卒業後、都市部の大学に進学した若者に、ひょうご e-県民制度等を通じてふるさとへの誇りや愛着を育て、UターンやJターンを促す。さらに、伝統文化の保存などの地域活動に若者をはじめ地域外からも協力者を呼び込み、関係人口の増加を図る。

このほか、地域の特徴である農林業への就業を考える若者や UIJ ターン者等を対象に就業に関する相談や、次世代農業の担い手の確保・育成を図るため集落農業の支援などを行う。

さらに、田舎で暮らしたいと思っている都市部の住民に対しては、地域の魅力発信や住居の物件紹介、就職支援などの相談を行うほか、先輩移住者との交流や田舎暮らし体験など移住のサポートを行う。

(2) 地域で結婚を進める機運の醸成と安心して子育てできる環境の整備

結婚に消極的な独身の若者に対して、地域全体で結婚に前向きになるようなキャンペーンを展開し、学生が子育てを模擬体験できる機会の提供や情報誌の発行を通じて、結婚の良さや子どもを持つことの楽しさを伝えていく。

また、結婚を望む独身者の相談や、男女の引き合わせなどの縁結び活動を担う推進員を置くとともに、地元企業や関係機関・団体等と連携して、実情に合わせた結婚支援事業を推進していく。

さらに、将来子育て世代となる若者を応援する団体を支援するほか、安心して子育てができるよう待機児童の解消に向けた保育人材の確保をはじめ、小児医療や児童福祉事業に関し、市町や関係機関と連携・情報交換するなど子育て環境を整備する。

(3) 様々な人々が共に暮らすための保健・福祉・医療の総合的な推進

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らしていくため、多剤服用による副作用などのポリファーマシーや残薬問題の解決のほか、認知症対策に取り組むとともに、発達障害のある人への理解促進や農福連携による障害者の就労支援など新たな取組にチャレンジし、様々な人々が共に暮らせる社会の実現を目指す。

また、大学の医学部と協力して管内の病院等に医師派遣を行うほか、県立はりま姫路総合医療センター（仮称）（令和4年度完成予定）とも連携し、産婦人科医をはじめとする西播磨地域の医師確保に向けた取組を進めていく。

(4) 社会基盤の整備などによる生活利便性の向上

通勤や通学など日常の生活の足として利用されている JR 姫新線等の利用促進を図るとともに、東西道路の整備に比べて、遅れている南北道路の整備を重点的に進め、播磨科学公園都市を核とした道路ネットワークを形成し、生活の利便性を向上させ、人口流出防止につなげていく。

また、高齢化の進展にも関わらず、車を主な交通手段とせざるを得ない地域住民の移動安全性と利便性の確保に向けて、播磨科学公園都市を自動運転技術などの実証フィールドとして活用し、課題解決につながる先端科学技術の開発に寄与していく。さらに、Society5.0 を目指し、ICT を活用した遠隔診療、ドローンによる荷物配送など、中山間地における日常生活に新たな技術を取り込む実験にも積極的に協力していく。

但馬県民局 地域創生戦略

I 目指す姿

但馬地域は、加速度的な人口減少や少子高齢化、とりわけ若者の域外流出が進む中、地域経済の活性化など解決に向けて取り組むべき課題を多く抱えている。

今後、地域の活力を維持するためには、日本農業遺産に認定され世界農業遺産認定を目指した取組が進む「兵庫美方地域の但馬牛システム」や、日本遺産の認定を受けている「鉱石の道」「北前船」「麒麟獅子舞」、ユネスコ世界ジオパークとして再認定された「山陰海岸ジオパーク」などの豊かな地域資源を活用し、地域の魅力をより高める必要がある。

さらに、「国際観光芸術専門職大学（仮称）」の開学や豊岡演劇祭の開催、劇団「青年団」の但馬移転等により新たに芽生えた“芸術の力”を生かした地域づくりなど、但馬にしかない地域の強みを最大限に発揮した取組を実施することにより、交流人口の拡大、移住・定住を促進し、将来にわたり活力ある地域社会の構築を目指す。

【目標】

KPI	目標
観光入込客数	1,100万人
芸術文化に接する機会があると思う人の割合	前年度を上回る
但馬地域におけるUターン者数	400人（単年）
住んでいる地域にこれからも住み続けたい人の割合	前年度を上回る

II 取組の方向性

1 地域の元気づくり

(1) 地域資源を生かした活力の創出 ～但馬を盛り上げる～

“芸術の力”を生かした地域づくりや鉱石の道、山陰海岸ジオパーク、コウノトリ、城崎・湯村温泉などの地域資源を核とした産業振興等により、活力の創出を図る。

(2) 但馬の魅力を体感する周遊ツーリズムの推進 ～但馬を楽しむ～

但馬地域の多様なツーリズム資源を有効に活用し、各種プロモーションの実施や周遊観光の強化により、交流人口の拡大を図る。

(3) 農林水産資源のブランド力強化 ～但馬の強みを生かす～

コウノトリ育む農法の拡大や但馬牛の増頭対策、水産業の経営強化等、但馬の豊かな農林水産資源のブランド力強化により、産業・経済の活性化を図る。

2 人口対策

(1) 但馬への移住・定住の促進 ～但馬で暮らす・働く～

「但馬の多様な魅力」を総合的に発信し、住まいの確保、就職支援などの対策を総合的に行うことにより、UIターンによる若者など定住者の増加を図る。

(2) 住民主体による地域づくりの推進 ～但馬とつながる～

但馬とつながりを持つ人々が実施する、地域のにぎわい再生、環境保全等の地域活動を支援するなど、住民が主体の地域づくりを推進する。

Ⅲ 具体的な取組（主なもの）

1 地域の元気づくり

(1) 地域資源を生かした活力の創出 ～但馬を盛り上げる～

- ・「芸術の郷但馬」の推進（豊岡演劇祭や国際観光芸術専門職大学(仮称)と連携した芸術イベントの但馬全域での実施等）
- ・「鉱石の道」プロジェクトの推進(鉱石の道4エリアの整備・地域活動への支援等)
- ・山陰海岸ジオパークの推進(ジオツーリズムの拡大、情報発信の充実・強化等)
- ・コウノトリの棲める郷づくりプロジェクトの推進(生息環境の整備、野生復帰PR事業の推進等)

(2) 但馬の魅力を感じ周遊ツーリズムの推進 ～但馬を楽しむ～

- ・広域的誘客力の強化（但馬サイクルツーリズムの推進、夢但馬周遊バス「たじまわる」の運行、フットパスの推進等）
- ・観光客受入体制の整備（インバウンド対策の強化、観光人材の育成、拠点観光地の魅力向上等）
- ・交通基盤の整備（北近畿豊岡自動車道、山陰近畿自動車道、主要観光地へのアクセス道路整備の推進等）

(3) 農林水産資源のブランド力強化 ～但馬の強みを生かす～

- ・但馬牛の生産基盤強化対策の推進（生産性向上、後継者・新規参入者の受入体制整備、日本農業遺産「但馬牛システム」を生かした交流の促進等）
- ・コウノトリ育む農法の取組拡大（ICTを活用した水管理省力化の推進、生産拡大、販売対策の強化等）
- ・但馬水産王国の再興（「但馬産松葉ガニ」のブランド力強化等）

2 人口対策

(1) 但馬への移住・定住の促進 ～但馬で暮らす・働く～

- ・移住・定住希望者への対応強化（移住相談、UIターン関連情報の発信強化等）
- ・「但馬で働こう」大作戦の推進（但馬の企業・産業や「たじま暮らし」の魅力発信等）
- ・新たな働き方の実践（ICTを活用したスマート農業・大規模畜産経営の推進、演劇・温泉・ジオパーク等を楽しみながら働くワーケーションの推進等）

(2) 住民主体による地域づくりの推進 ～但馬とつながる～

- ・地域のにぎわい再生に向けた取組の推進（学生グループの活動支援等）
- ・地域の自然環境保全・再生に向けた取組の推進（若者によるラムサール条約湿地の保全等）
- ・但馬ファン増大による関係人口の拡大（但馬ファンクラブ会員・コウノトリファンクラブ会員等の増加に向けた取組等）

丹波県民局 地域創生戦略

I 目指す姿

引き続き「丹波の森宣言」の4つの宣言に基づく住民・事業者・行政が一体となった地域づくり（丹波の森づくり）が進んでいる。その結果、神戸から約50km、大阪・京都から約60kmと京阪神大都市の近郊にありながら、豊かな自然、景観、伝統文化が息づき「日本の原風景」とも称されている丹波地域。

①既に全国ブランドである黒大豆や大納言小豆、栗などに加えて、地域の宝である農産物をさらに育成・情報発信することで、世界的なブランドとしての確立が進んでいる。②併せて、国内外旅行者のニーズの変化に対応して、「恐竜化石」や「里山」、「源流の里（水分れ）」といった特有の地域資源も活用した、体験・滞在型ツーリズムの普及が図られている。③また、IT・ロボット等の先進技術や、空き家・廃校等の遊休資産の活用が、集落活動の衰退や農業の担い手不足といった地域課題の解決に有効であると広く認知され、地域との連携を前提とした企業立地や起業が進んでいる。

こうした丹波の森づくりの推進により、交流人口や移住・定住者が年々増加するとともに、地元住民と一緒に活躍する姿があらこちらで見られることとなり、自然と織りなす豊かなライフスタイルが実現できる地域、そして賑わいあふれる「オシャレな田舎TAMBA」として輝いている姿を目指す。

【目標】

KPI	目 標
年間入込客数 (うち宿泊客数)	5,000千人 (260千人)
地元や県内の農林水産業に、活気が感じられると思う人の割合	20.0%
先進技術や遊休資産を活用した年間起業数	14箇所
しごとと自分の生活の両立ができている人の割合	75.0%
年間移住者数（管内2市の移住窓口経由）	120人
住んでいる地域にこれからも住み続けたい人の割合	80.0%
住んでいる市・町の自然環境は守られていると思う人の割合	60.0%
住んでいる地域の災害に対する備えは、以前より確かなものになっていると思う人の割合	50.0%

II 取組の方向性

「丹波の森づくり30周年記念シンポジウム」(H30.11)において、人口減少社会や革新技术の浸透、世界的な人・モノの交流といった新たな時代・環境変化も踏まえ、**丹波の森宣言【宣言1~4】**(S63.9)に基づく今後の取組の方向性が提示された。

【宣言1】丹波の健全な発展をそこなうような自然破壊は行わず、森を大切に守り育てます。

◇丹波らしい土地利用を進めるとともに、農地を守り育て、集落の暮らしを大切に守り抜く。

◇山や川、水辺を守り育て、野生動植物と共生する(生物多様性を育む)。

【宣言2】丹波の自然景観を大切にし、花と緑の美しい地域づくりを進めます。

◇丹波らしい景観形成を進めるとともに、「たんば三街道」の修景等、地域全体で来訪者をもてなす。

◇丹波の森のシンボルとなる公園や身近な里山等を活用した自然体験プログラムを提供する。

【宣言3】丹波の文化景観及び歴史的遺産を大切にし、個性豊かな地域文化を育てます。

◇城下町や門前町、宿場町の街並みや、デカンショ節・丹波焼といった日本遺産、加えて恐竜化石や25年以上続く「シューベルティアードたんば」等の豊かな地域資源や文化を次世代へと継承する。

【宣言4】丹波の素朴さと人情を大切にし、安らぎと活力に満ちた地域づくりを進めます。

◇丹波の森づくりを進める人材や事業者を地域内外から集めるとともに、その連携・支援体制を整備する。

◇丹波ブランド農産物を育成し、全国ひいては世界的なブランドとして確立する。

◇体験・滞在型旅行者のニーズを捉え、丹波ファンを拡大し、交流を促進する。

◇豪雨災害の経験と教訓を踏まえ、安全安心な地域をつくる。

III 具体的な取組(主なもの)

1 体験・滞在型ツーリズムの推進

体験・滞在型施設の開設支援や拠点情報の一元化、インバウンド向け環境やサイクリング環境の整備などにより、旅行者のニーズを喚起する。また、旅行者へのアンケートや動態データを継続的に取得・分析し、都度環境改善を図る。

- ・農家民宿等の開設準備セミナー、農家レストラン等の拠点情報の一元化
- ・サイクリング環境の整備
- ・通訳ガイド講座、旅行者へのアンケート調査や動態データ等の解析

2 ブランド農産物・特産物の創出

特産物フェアの開催や海外販路の開拓、先端技術による生産管理の軽労化など、生産・販売の両面から戦略的にブランド化を図る。

- ・新ブランド戦略検討委員会の設置、海外見本市への出展支援
- ・栗・大納言小豆・山の芋の現地フェア、及び特産物の都市部でのフェア
- ・酒米新品種「Hyogo Sake 85」の作付面積拡大と産地化

- ・先端技術を活用した丹波ブランド農産物の農地管理効率化
- ・中山間地域におけるロボット除草機等による軽労化

3 地域住民と起業家・先進企業との連携推進

住民と起業家、行政等が連携し、地域課題の解決に資するモデル事業の実施により、先進技術や遊休資産の活用の可能性と有効性を広く共有するとともに、研究開発支援等のインセンティブ制度により、起業家や先進企業を呼び込む。

- ・企業や地域住民向け先駆事例発表・意見交換会、事例等の地域内外への浸透
- ・地域課題解決型モデル事業の実施、研究開発支援等インセンティブ制度の創設
- ・集積企業と連携した次世代の丹波地域を担う人材育成

4 移住・環流の促進

都市部に近く豊かな自然の中で暮らせる丹波地域の長所を活かして、移住・環流の促進に取り組む。先輩移住者が都市部へ直接出向き、子育て世帯等と直接語り合うカフェの開催等により、市の相談窓口へつなぐ、きっかけづくりを図る。

- ・たんば暮らしファン交流カフェ
- ・農家民宿等を活用したお試し滞在の支援、先輩移住者の暮らしぶり紹介冊子
- ・女性のための起業セミナー等による多様な働き方の支援

5 里山づくり・源流の里づくりの促進・恐竜化石フィールドミュージアムの推進

モデルとなる里山づくり活動を継続的に支援し、その過程を広く発信することで、地域住民による里山づくり活動を促進する。また、水分れ域の源流の里ならではの景観や水辺空間を更に身近に感じてもらえる親水環境を整備する。さらに世界の恐竜化石産地の多くと異なり、篠山層群が人里近くにある特徴を活かし、参加・体験型発掘調査や篠山層群露頭見学ツアーの実施等により、恐竜化石フィールドミュージアムの定着を図る。

- ・里山づくり活動モデル団体への継続的な支援、活動の広報、研修会等の開催
- ・生物多様性に配慮した河川環境づくり、生物観察ツアーの開催
- ・桜つつみ回廊の長寿命化計画の策定と対策
- ・化石剖出体験等ツアーの実施と案内人（インタープリター）の養成、都市部での化石発掘体験会の開催（アウトリーチ事業）、道の駅へのエリアマップ看板設置

6 安全安心の向上

平成 26 年 8 月の豪雨災害の経験を踏まえ、地域防災力の向上に取り組むとともに、保健・医療や福祉、防犯などの暮らしの安全安心のための取組を進める。特に防災、医療については、他圏域との広域連携の体制づくりも進める。

- ・防災リーダー向けの研修等による地域防災力の向上
- ・阪神・淡路大震災や丹波豪雨災害の経験と教訓を伝える取組
- ・広域連携を進めるための協議会等における積極的な提案活動

淡路県民局 地域創生戦略

I 目指す姿

世界が憧れる魅力あふれる淡路島

「ワールドマスタースゲームズ2021関西」や「大阪・関西万博」開催等を見据え、淡路島の多様な資源を活かし、世界の人びとから選ばれる魅力づくりを進める。

また、住み続けたくなる豊かな暮らしが将来にわたって持続できる地域の実現を目指す。

【目標】

項目	現状値	目標値(2024年度)
観光入込客数	1,257万人(2018年度)	1,550万人
淡路島産食材を提供する「こだわり宣言店」登録店舗数	79店舗(2019年度)	150店舗
淡路島への年間移住人数 (「あわじ暮らし総合相談窓口」を利用)	123人(2018年度)	200人

II 取組の方向性

1 地域の元気づくり

「大阪・関西万博」の開催等により、国内外から大阪湾ベイエリアを訪れる観光客の増加が見込まれることから、誰もが利用しやすい公共交通の整備や食を中心とした周遊・滞在型ツーリズムの推進などにより、淡路島への誘客を促進するとともに、食を活かした地域活性化の取組を進め、豊かな暮らしが将来わたって持続できる元気な淡路島を実現する。

2 人口対策

高校卒業を機に島外に転出する若者が多いことなど、人口減少が続くなか、UJIターンを促進するとともに、ふるさと学習の推進や鳴門海峡の渦潮の世界遺産登録に向けた取組など、ふるさと意識の高揚を図る施策を積極的に展開し、島民が誇りに思い住み続けたくなる、島外の人々が住みたくなる魅力ある淡路島づくりを進めていく。

III 具体的な取組

1 地域の元気づくり

(1) 交流人口の増加

① 地域資源を活かした観光振興

淡路島の多様な観光資源を活かし、ターゲットを明確にしたプロモーションを展開し、国内外からの誘客を促進する。

[主な施策]

- ・観光デジタルプロモーションの推進
- ・ターゲットを明確にした観光プロモーションの推進

- ・首都圏からの誘客の促進
- ・インバウンド誘客の促進
- ・来島者受入環境の整備
- ・大阪・関西万博サテライト施設の整備
- ・官民一体となった観光施策の推進

② 自家用車なしで巡る淡路島の実現

公共交通の維持、利便性向上を図りつつ、観光客にとっても利用しやすい公共交通の実現を目指す。

[主な施策]

- ・島内高速バス停等を拠点とした主要観光地への公共交通網の構築
- ・「淡路島M a a S」の推進
- ・大阪・関西万博に向けた海上交通の調査検討

③ 「美食の島」あわじの実現

淡路島産食材のブランド化と島内の地域資源を組み合わせたツーリズムを推進し、食を活かした地域活性化を図る。

[主な施策]

- ・淡路島グルメの充実・レベルアップ
- ・淡路島産食材のブランド化の推進
- ・島グルメの戦略的な情報発信
- ・ガストロノミーツーリズムの推進

④ スポーツアイランド淡路島の推進

自然豊かな淡路島の魅力を活かして、多様なスポーツの楽しみ方を提案し、滞在型ツーリズムの促進を図る。

[主な施策]

- ・「アワイチ」魅力アップの推進
- ・トレッキングやウォーキングなど新たなコンテンツの開発
- ・スポーツを中心とした滞在型ツーリズムの推進

(2) 淡路島を支える産業の振興

① 農畜水産業の振興

先端技術の導入による生産効率の向上等により、農畜水産物の安定供給、産地の活性化を図る。

[主な施策]

- ・たまねぎ大型コンテナ等機械化体系の構築
- ・スマート農業の導入促進
- ・あわじ島レタスの産地競争力の強化
- ・G A P 認証取得推進による野菜のブランド力の強化
- ・淡路和牛増頭対策の推進

・淡路島産水産物の流通・消費拡大の促進

② 農畜水産業の生産基盤の強化

「美食の島」を支える農畜水産業の生産基盤強化を推進する。

[主な施策]

- ・企業等の多様な主体による先進的な農業経営の展開
- ・ほ場整備事業の推進
- ・広域農道（オニオンロード）の整備推進
- ・漁業生産基盤の機能保全

③ 商工業の活性化

伝統的な地域産業の情報発信の取組や商店街のイベント等に対する支援を通じ、商工業の活性化を図る。

[主な施策]

- ・地域産業魅力アップの支援
- ・商店街の活性化支援

(3) すこやかな暮らしの持続

① あわじ環境未来島構想の推進

「エネルギーの持続」「農と食の持続」「暮らしの持続」を3本柱とした取組を進め、『生命つながる「持続する環境の島」』の実現を目指す。

[主な施策]

- ・あわじ環境未来島構想モデル事業の支援
- ・「EVアイランドあわじ」の推進
- ・エネルギーの地産地消の推進

② 地域再生大作戦の展開

地域の自主的・主体的な取組による賑わい創出や活性化、定住等を促進するため、地域再生大作戦を展開する。

[主な施策]

- ・地域の自主的な地域活性化の活動支援
- ・起業等の活動促進

③ 地域づくり活動の促進

地域団体のネットワーク化等により、地域課題に対する取組を支援し、活力と魅力ある地域づくりを推進する。

[主な施策]

- ・地域づくり活動の支援

(4) 安全・安心な島づくり

将来発生確率が高まる南海トラフ地震や近年多発する大規模自然災害に対する備えを着実に進めるなど、くらしの安全・安心を確保する。

① 自然災害への備えの充実

[主な施策]

- ・津波防災インフラ整備計画の推進
- ・大規模自然災害の発生に備えた地域防災力の向上支援
- ・治水・土砂災害対策、治山事業の推進
- ・淡路の農業を支える安全・安心なため池整備の推進

② 生活の安全・安心確保

[主な施策]

- ・安全・安心で快適な道路づくりの推進

2 人口対策

(1) 住み続けたいくなる淡路島づくり

① ふるさと意識の醸成

ふるさと学習や「鳴門海峡の渦潮」の世界遺産登録に向けた取組等を推進することにより、住民が誇りに思い住み続けたいくなる島づくりを進める。

[主な施策]

- ・「鳴門海峡の渦潮」世界遺産登録に向けた取組の推進
- ・淡路人形浄瑠璃の魅力発信
- ・淡路ふるさと学習の推進

(2) 淡路島への定住促進

① 地元就業の促進

地元での人材育成の取組や農業の担い手の育成支援等により、若者の地域定着を図る。

[主な施策]

- ・地域に根ざした多様な人材育成・はたらく場所の確保
- ・農業の担い手の育成支援

② 都市住民の移住促進

定住人口の増加を図るため、相談窓口の充実等によって、都市住民の転入促進を図る。

[主な施策]

- ・都市住民の転入促進

(3) 生涯現役！あわじ健康長寿の島づくり

① 健康長寿の島づくり

誰もが、いきいきと安心して暮らせる島づくりを目指し、栄養・運動・社会参加を3本柱とした取組を進める。

[主な施策]

- ・生涯現役！あわじ健康長寿の島づくり
- ・高齢者就労対策の推進